

# 調査・研修等計画届出書

令和 元年 7月12日

瀬戸市議会議長 様

議員名 富田 宗一



政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

## 記


期 日	令和 元年 8月 1日から 8月 2日まで (1泊2日)	
調査先・研修名	令和元年度第1回市町村議会議員特別セミナー	
会場名 (会場所在地)	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研修所 (国際文化アカデミー)	
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	研修では、地域を元気にするまちづくりについて多角的に考える。 *滋賀県の挑戦～みんなでつくろう！健康しが～ (講師 滋賀県知事 三日月大造) *人生100年時代とごちゃまぜ社会 (講師 社会福祉法人佛子園 雄谷良成) *スポーツツーリズムを活用したまちづくり： スポーツがもたらす地域活性化の効果 (同志社大学スポーツ健康科学部 教授 二宮浩彰) *関係人口のつくり方～ぼくらは地方で幸せを見つける～ (月刊「ソトコト」編集長 指出一正) スポーツを通じての健康都市とまちづくりを学ぶ	
議長名の依頼	要・ <del>不要</del>	依頼先 (名称)
同行者名	無し	

※行程表を添付してください。

# 調査・研修等報告書

令和 元年 8月 5日

瀬戸市議会議長 様

議員名 富田 宗一 

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

## 記

期 日	令和 元年 8月 1日から 8月 2日まで (1泊2日)
調査先・研修名	令和元年度第1回市町村議会議員特別セミナー
会場名 (会場所在地)	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研修所 (国際文化アカデミー)
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	<p>研修では、地域を元気にするまちづくりについて多角的に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>*滋賀県の挑戦～みんなでつくろう！健康しが～ (講師 滋賀家県知事 三日月大造)</li><li>*人生100年時代とごちゃまぜ社会 (講師 社会福祉法人佛子園 雄谷良成)</li><li>*スポーツツーリズムを活用したまちづくり： スポーツがもたらす地域活性化の効果 (同志社大学スポーツ健康科学部 教授 二宮浩彰)</li><li>*関係人口のつくり方～ぼくらは地方で幸せを見つける～ (月刊「ソトコト」編集長 指出一正)</li></ul>

\*滋賀県の挑戦～みんなでつくろう！健康しが～

滋賀県三日月大造知事は、県民の平均寿命や健康寿命が全国上位にあることを踏まえ、重点政策に「健康しが」の実現を掲げた。「人、自然、社会の各分野で健康につながる施策を推進し、1人が100歩進むより、100人が1歩進む県政を実現したいと」と取り組んでいる。

\*人生100年時代とごちゃまぜ社会

石川県金沢市、他世代が共生する「ごちゃまぜ」のまち『シェア金沢』日本版CCRCの先進事例として注目される『シェア金沢』の活動と効果の取り組み  
ごちゃまぜのまちがまちを活性化させた！

CCRC（継続的なケアを受けられる高齢者の地域共同体）は米国で生まれた概念で、リタイヤした人が第二の人生を健康的に楽しむまちのことだ。

日本でも「日本版CCRC」が地域創生の柱として注目を集めているが、そのコンセプトは「中高年が希望に応じて地方や『まちなか』に移り住み、地域住民や他世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる『生活活躍のまち』だ。

\*スポーツツーリズムを活用したまちづくり：

スポーツがもたらす地域活性化の効果

スポーツによって地域の活性化を目指すスポーツツーリズム。その分類や、スポーツツーリストを惹きつける旅行目的地などを意味するスポーツデスティネーションの諸事象について。

\*関係人口のつくり方～ぼくらは地方で幸せを見つける～

まちづくりって、結局どんなコト？

元気なまちには、どんな秘密があるの？

全国では、まちを舞台にどんなコトが起こっているの？

私にもできるの？

一歩先行く全国や世界のローカル情報を掲載し、そのリアルな内容が人気の月刊「ソトコト」指出一正編集長の取り組み。

調査先（主な質疑・応答内容） / 研修（受講後の感想）

\*滋賀県の挑戦～みんなでつくろう！健康しが～

県民の平均寿命や健康寿命が全国上位となり、「長寿県」として知られるようになった。この機を捉え、県政の重要施策として「健康しが」の実現を公約に掲げた。「人」「自然」「社会」の各分野で健康につながる施策を推進し、県民が「健康」を実感できる環境を整えたい。1人が100歩進むより、100人が1歩進む県政を実現するとの思いで取り組んでいる。

『健康しが』に込めた思いは人と人との「支え合い」。いろいろな生業、糧を得ていく、伸ばしていく「活力」。その人その人の「自分らしさ」を大切にする。

『人の健康』今後のキーワードとして、健康寿命、要因を分析しビックデータを作成し大学と連携していく。「食べる」健康作り、「滋賀めし」メニュー開発とか大学・企業とのコラボレーションを考える。体験活動と強化の連動、滋賀ならではの感動体験（うみのこ：湖上宿泊体験学習）。ゴールデン・スポーツイヤーズ、国スポ・障スポ開催内定！（湖国感動 未来へつなぐ わたSHIGA輝く国スポ・障スポ）。『幻の安土城』復元プロジェクト、空前のお城ブーム、「幻の安土城」復元という夢を追求。国宝「彦根城」のほか約1300の城跡。

『社会の健康』今後のキーワードとして、大型観光キャンペーン、大河ドラマ「麒麟がくる」、連続テレビ小説「スカーレット」に便乗。地域公共交通、Maas。次世代成長産業、実証実験のフィールドとオープンイノベーション。

『自然の健康』今後のキーワードとして、やまの知事、活力ある林業、幅広い県産材の利用、新たな産業おこし、都市部との交流。ビワイチ、10万人突破、ビワイチアプリ、ビックデータ。

『世界』今後のキーワードとして、世界とのつながりの中で、中国、アメリカ、アジア、交際親善大使。

\*人生100年時代とごちゃまぜ社会

「シェア金沢」ができた経緯は、2008年までさかのぼる。当時、石川県小松市野田町に手つかずになった廃寺があり、防犯の観点から周辺の住民にとっては課題となっていた。

シェア金沢を運営する社会福祉法人佛子園に、その土地を無償譲渡する話が持ち込まれた。そして、佛子園は2008年に地域コミュニティセンターとして機能を持たせた、高齢者や障害者の生活介護を行う施設「西園寺」をオープンした。

福祉施設や近隣の障がい者や高齢者が通って働く施設だけでなく、旧本堂を居酒屋にし、温泉を掘った。しかも温泉を野田町内の住民には無料開放した。『ごちゃまぜ』の施設にしたことで、まちと施設に交流が生まれ、徐々に野田町の核となる施設になった。

温泉での裸の付き合いが距離を縮めてくれた要因かもしれないが、住民の方が温

泉の掃除をしてくれるなど、積極的に西圓寺に関わってくれるようになった。当初は福祉施設ができることに不安を感じる住民の方もいたが、今では野田町のみなさんか協力者となった。

この経験がシェア金沢につながっていく。石川県白山市にある障がい児入所施設の老朽化に伴い、移転先を探していたところ、金沢市内の国立病院の跡地が候補になった。想定より広がってが、分筆できない条件だったため、全敷地を購入。そこに「シェア金沢」ごちゃまぜのまちをつくった。「認知症の高齢者と体の不自由な方が、同じコミュニティーにいて多くの利点がありました。たとえば、体の不自由な方を見て認知症の高齢者が食事の手助けをすると、それに応えようといつも以上に体を動かしてなんとか食べようとします。それがリハビリになるのです。認知症の高齢者の徘徊もへりました。『ごちゃまぜ』施設ではこうした予想外の効果が生まれています。「西圓寺」で活性化した野田町は近隣が人口減少するなか 20世帯も増えた。新しい野田町に魅力を感じ、若い世代が帰ってきた主因だ。「シェア金沢」にも温泉があり、町内の方は無料で利用できる。そこでは西圓寺と同じく、地元の人と施設利用者の交流が生まれている。

\*スポーツツーリズムを活用したまちづくり：

スポーツツーリズムには、プロスポーツなどを観戦する「みる」スポーツや、ランニング、ウォーキングなど自ら行う「する」スポーツ、そして、地域に密着したスポーツチームの運営、ボランティアとしての大会支援、国際競技大会・キャンプ誘致など「支える」スポーツなど、幅広い形があります。スポーツ庁が策定した「スポーツ基本計画」では、スポーツを通じた経済・地域の活性化が述べられ、スポーツ資源を活用することによる観光振興への期待も高まっています。

本年行われるラグビーワールドカップや東京 2020 オリンピック・パラリンピックなどの国際的なスポーツイベントを控え、外国人観光客のさらなる増加が見込まれる今、スポーツを観光にどのように生かせればよいのでしょうか？またこれに限らず、地域に波及するスポーツの力とはどのようなもののでしょうか？

\*関係人口のつくり方～ぼくらは地方で幸せを見つける～

島根県「しまコトアカデミー」・静岡県「地域のお店」・奈良県「奥大和アカデミー」・奈良県「奈良・下北山 むらコトアカデミー」・福井県「越前おおのみずコトアカデミー」・和歌山県「たなコトアカデミー」・高知県「地域の編集学校 四万十川源流点校」などの事例にもとづいて、地域以外の方々がその地域におとづれてその地域のすばらしさを住民と話し合っ（関係人口）地域に根付いていく取り組みをしていく。

## 調査・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

今回の令和元年度第1回市町村議会議員特別セミナーを受講して、滋賀県知事 三日月大造・社会福祉法人佛子園理事長 雄谷良成・同志社大学スポーツ健康科学部教授 二宮弘彰・月刊「ソトコト」編集長 指出一正、4名の講師の話を伺い共通することは、『地域を元気にするまちづくりについて多角的に考える。』でありそれぞれの地域内用は異なるが、瀬戸市においても共通できるものがあった。

滋賀県知事 三日月大造においては、健康都市としては、地域社会が目指す健康寿命を延ばす取り組みについて学ぶことができた。瀬戸市も健康都市であり、平均寿命と健康寿命の寿命の差が縮まる取り組みをしていかなければならない。

社会福祉法人佛子園理事長 雄谷良成の取り組みは、長久手市の社会福祉法人愛知たいよう社の「ゴジカラ村」と同じように思われた。地域によってさまざまなユニークな取り組みがされる中、高齢者、障がい者、子どもなど全世代が関わって暮らせる福祉社会の実現に取り組んでいかなければいけない。

同志社大学スポーツ健康科学部教授 二宮弘彰においては、スポーツツーリズムがもたらす地域活性化の効果として、対外的なスポーツデスティネーションとしての知名度とイメージの向上、スポーツイベント運営費と参加者の消費支出による経済波及効果、地域住民の一体感や帰属意識の醸成と参加者が抱く地域に対する愛着。スポーツを通じての健康都市とまちづくりにつながるのではないのかと思う。

月刊「ソトコト」編集長 指出一正においては、地域以外の方々にまちの「良い所」を知っていただき、そのまちでその「良い所」について地域活性につなげる取り組みをしていただく。また、地元に戻ったあと広報支援をしていただく。過疎地域においては考えるところがあった。下半田川のおおサンショウウオを活用した取り組みがそこに当てはまることが出来ないだろうかと思いました。